食物連鎖（しょくもつれんさ）

がつ　にち　なまえ

発展（はってん）②

食物連鎖（しょくもつれんさ）

池の水を顕微鏡（けんびきょう）で見ると、目に見えないほど小さな生き物が、たくさんいることが分かります。その中には、ミカヅキモのような、緑色の小さな生き物もいます。

このミカヅキモなどの小さな生き物は、ミジンコに食べられます。ミジンコは、メダカに食べられます。そして、メダカは、もっと大きな魚や鳥に食べられます。

このように、生き物どうしは、「食べる・食べられる」という関係でつながっています。このつながりを、食物連鎖（しょくもつれんさ）といいます。

食物連鎖をたどっていくと、そのもとには、必ず植物があります。植物は、日光を受けて、自分で養分を作ることができます。けれども、動物は、自分で養分を作ることができません。そのため、植物を食べたり、植物を食べた動物を食べたりして、養分を取り入れているのです。

食物連鎖の中の、どれか一つの生き物がいなくなると、そのつながりがくずれ、ほかの生き物にも影響（えいきょう）が出ることがあります。生き物は、たがいに深くかかわり合って生きているのです。

さらに、生き物の死骸（しがい）やふんは、土の中の小さな生き物によって分解され、植物の養分になります。こうして、生き物のつながりは、ぐるりとひと回りしているのです。

1 ミジンコを食べる生き物として、本文に出てくるものは何ですか。

2 生き物どうしの「食べる・食べられる」のつながりを、何といいますか。

3 食物連鎖のもとに、必ず植物があるのはどうしてですか。

4 食物連鎖の中の一つの生き物がいなくなると、どうなることがありますか。

ぜんぶ　できたら　ほしに　いろを　ぬろう ☆ ☆ ☆

参考資料：Yahoo!きっず「食物連鎖ってなんだろう」／学研キッズネット「食物連鎖」

© きりんドリル kirinprint.shosakumo0806.workers.dev